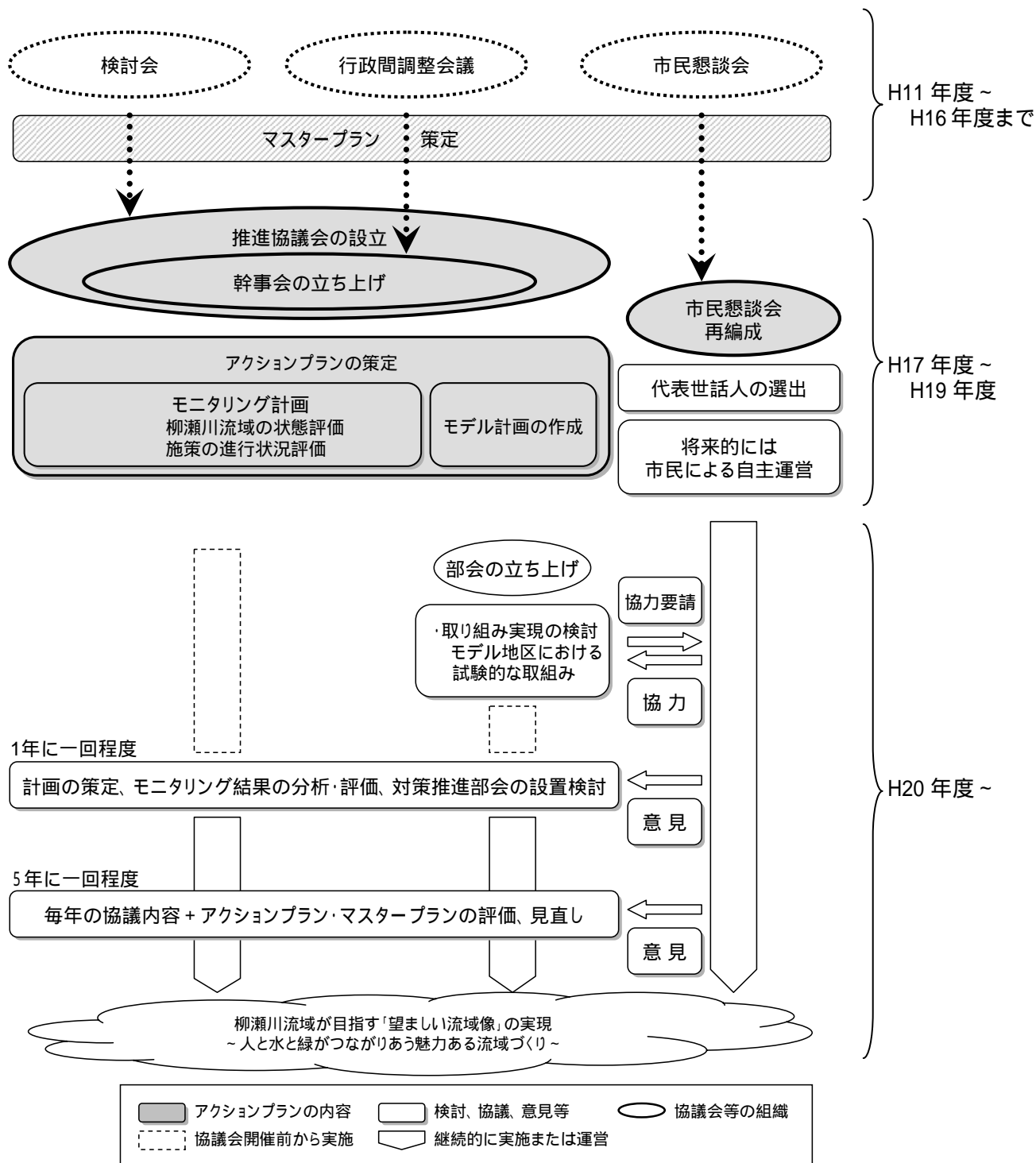


アクションプラン検討スケジュール

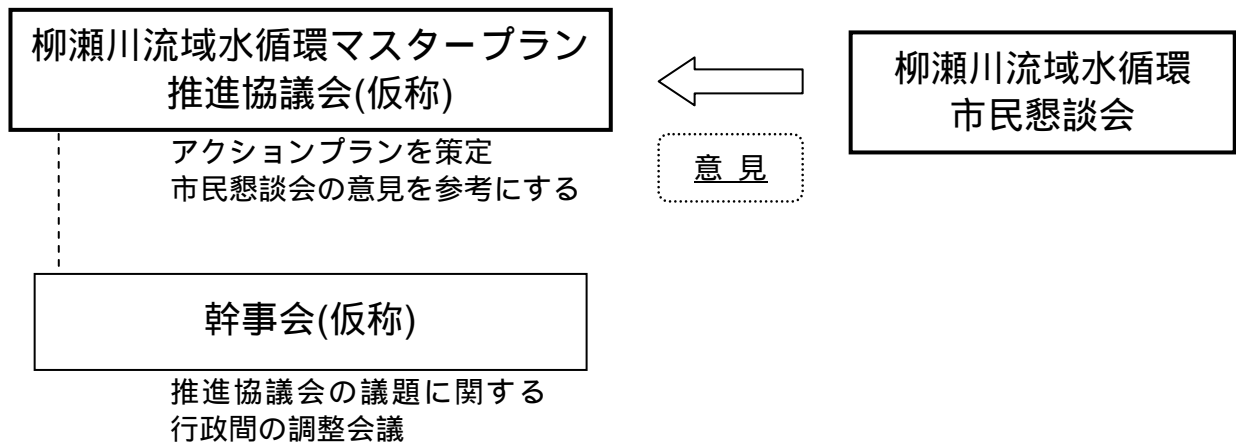
1. 「柳瀬川流域水循環マスタープラン」の策定と今後の取り組み

「柳瀬川流域水循環マスタープラン」を策定するにあたり、「柳瀬川流域水循環マスタープラン検討会」、「行政間調整会議」、「柳瀬川流域水循環市民懇談会」が組織されました。これにより、市民・学識経験者・行政が一体となり、幅広い意見を取り入れながらプランが策定されました。

今後は、これらの組織を再編成し、「柳瀬川流域水循環マスタープラン」を推進するための行動計画、「アクションプラン」を策定します。



2. それぞれの組織の位置づけ



3. 柳瀬川流域水循環マスタープランとは

水循環系の健全化に関する総合的な計画

- ・ 水に係わる総合的な整備・保全・管理を目指す
- ・ 河川環境のみならず、都市環境などの地域特性を考慮する

流域の抱える水の諸問題を解決し、より健全な水循環像を創出することで「望ましい流域像」を実現する

< 策定の背景 >

(これまでの治水に重点を置いた取り組み)

洪水被害軽減のために・・・

河川での取り組み(堤防のかさ上げ等)だけでなく、流域での取り組み(貯留・浸透)が必要

柳瀬川を含む新河岸川では、河川と流域が一体となった治水対策が先駆的に行われてきた。

(治水・利水・環境のバランスに配慮したこれからの取り組み)

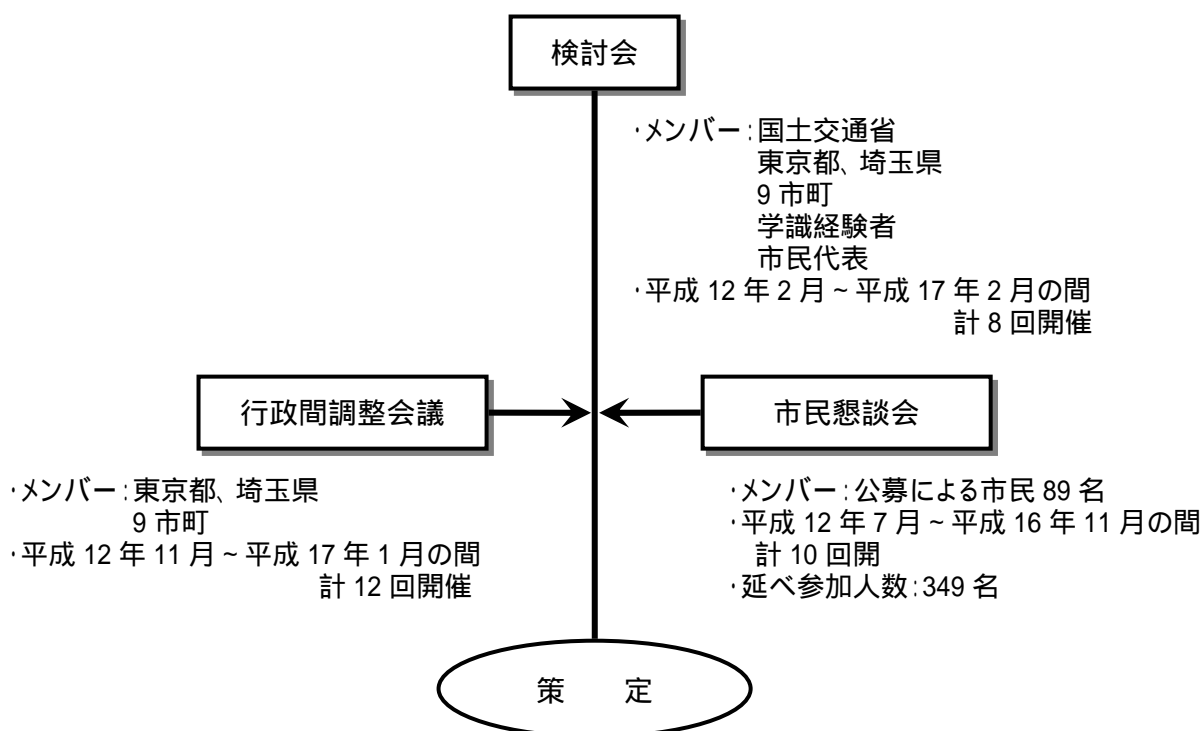
総合的な治水に加えて・・・

- ・ 平常時の水質改善、水量の回復
- ・ 水辺の親水区間の保全・回復
- ・ 生物多様性の保全・回復
- ・ 地下水の保全

流域における健全な水循環系の構築が必要

「柳瀬川流域水循環マスタープラン」の策定

検討経緯



柳瀬川流域水循環マスタープランの3つのポイント

<ポイント1> 計画理念と3つの基本方針による体系的取り組み

計画理念：人と水とみどりがつながりあう魅力ある流域づくり

基本方針1：都市化によって損なわれた流域の水循環システムの再生
(計画理念を水循環システムとして目指す姿に具体化)

基本方針2：将来に引き継ぐ治水・利水・環境のバランスがとれた流域づくりへの取り組み
(目指すべき姿を実現させるための取り組み)

基本方針3：人と人が水を通してつながりあう社会を目指した取り組み
(取り組みの進め方、目指す社会環境)

<ポイント2> 市民が提案する「望ましい流域像」のキャッチフレーズ・イメージ図

例) 子どもが川に入って安心して遊べる楽しい川(お母さん、川に行こうよ)

・対象区間：清流橋～金山橋(柳瀬川下流ブロック)



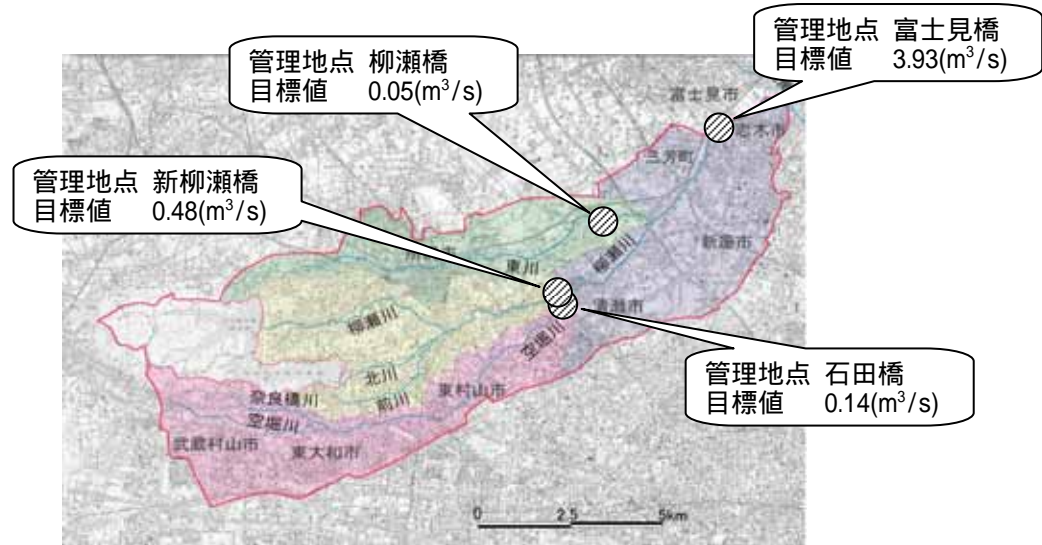
市民懇談会の様子



イメージ図

<ポイント3> 流域づくりの進捗を確認するための数値目標の設定

- ・キャッチフレーズ・イメージ図から数値目標を設定
- ・各ブロック下流端の管理地点で河川流量として設定

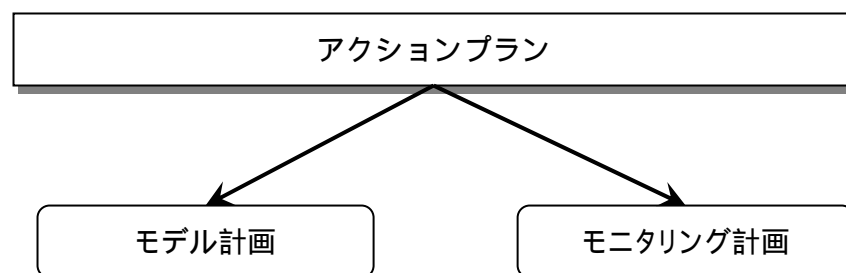


各ブロックの数値目標

数値目標達成のために実施が不可欠な地柵とその規模を設定

- ・緑地・農地の保全(現状を100%維持・保全)
- ・雨水貯留浸透施設の普及(未対策地の80%)
- ・河床への遮水工設置(空堀川の涵養区間)
- ・下水道整備の推進(整備率100%)

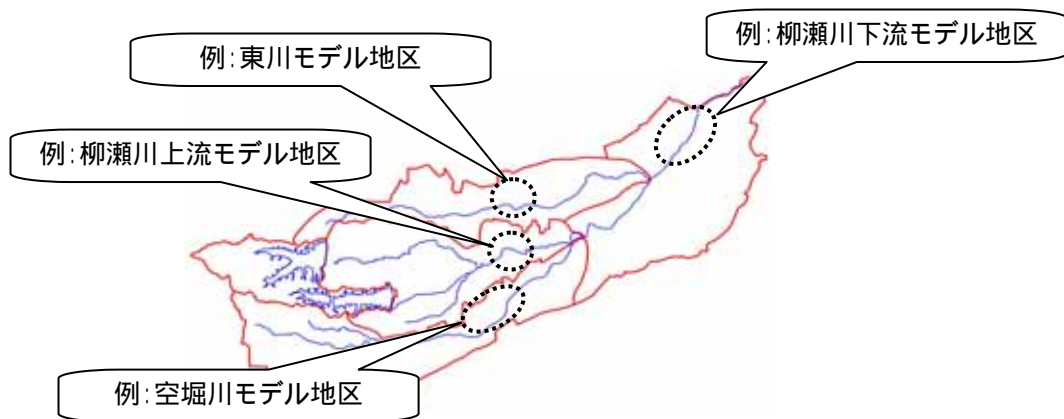
4. アクションプランとは



モデル計画

今の制度では実現が難しい取り組みの実施を検討

- ・実態把握
- ・課題の抽出
- ・モデル地区の設定
- ・試行的取り組みの実施



モデル地区のイメージ

モデル地区で検討する取り組み例

(緑地・農地の保全)

- ・ 各自治体の基金の統合
- ・ 流域全体のトラスト運動
- ・ 市民農園、体験農園
- ・ 遊水地指定により保全
- ・ 武蔵野雑木林指定
- ・ 開発者負担制度 トラストへの入金
- ・ 湧水保全涵養域指定により保全
- ・ 雑木林の公園化

(雨水貯留浸透施設の普及)

- ・ 開発(>0.05ha)に対する条例化とマニュアルの作成
- ・ ミニ開発(<0.05ha)に対する対策に基準を定める
- ・ 審査基準の明確化
- ・ 優良住宅認定制度
- ・ 既存ますの浸透化
- ・ 道路用地を用いた共同施設による雨水浸透
- ・ 雨水利用へのインセンティブ付与
- ・ 雨水利用槽・浸透マス一体型施設の普及
- ・ 配管業者、建築業者への講習及び設置促進の要請
- ・ 雨水排水量軽減に対するインセンティブ付与
- ・ 調整池の浸透化

モニタリング計画

水循環系チェックリストの検討

- ・ 流域の状態量(水量・水質等)
- ・ 施策の進捗状況(雨水貯留浸透施設の設置件数等)

整備率や施設設置数など定量指標だけでなく、市民にも分かりやすいことが必要

チェック項目例

- ・ 洪水は減ったか
- ・ 雨水貯留浸透施設への関心は高まったか
- ・ カブトムシの取れる雑木林はあるか
- ・ みどりを誰が管理しているか
- ・ 生態系は多様になったか
- ・ みどりに関連したイベントの参加者はどうか 等